第 4 回可児市地域公共交通協議会議事要点録　概要

【日　時】 **平成 21 年 3 月 27 日（金）午後 1 時 30 分～午後 4 時**
【場　所】 **可児市役所 4 階第 1 会議室**
【出席者】 **協議会委員 13 人、代理委員 4 人、欠席委員 2 人、事務局 3 人**

1　会長あいさつ

会長のあいさつの後、可児市地域交通協議会（以下、「協議会」）の会議運営に基づき、今回の会議録の議事録署名者として林美由樹委員と桑下委員の指名があった。

また、今回新たに委員となった高橋委員に委嘱状を交付した。

2　さつきバスのデマンド運行実証実験について

資料 1、当日配布資料（第 3 回可児市地域公共交通協議会以降の経過）、参考資料 1，２に基づき事務局から説明し、デマンド運行の実証実験は、さつきバスの利用の少ないところから行うこととし、デマンド運行検討会で実験の案をまとめることとなった。

（主な意見）　　**【発言者】○委員　⇒事務局**

▼パソコン（PC）システムの利用について

○　**運行区域を市全体に広げた場合、事務局の案ではできない。**

⇒　**可児市内であっても移動の特性や他の公共交通機関の有無により、それぞれの地域で事情が違っている。さつきバスの改正は利用の少ないところから進めていき、利用の多いところは定時定路線が残る可能性があると考えており、デマンド運行の区域を市内全域に一気に広げる考えはない。まずは利用の少ない川合土田線でデマンド運行を実験し、現在の利用人数の規模であれば PC システムは不要と考えている。**

▼デマンド運行検討会（以下、「検討会」）について

○　**デマンド運行については、協議会の要綱に基づく分科会を立ち上げて検討し、協議会に案を諮ってはどうか。今回立ち上げられたのは分科会ではなく検討会である。**

○　**プロジェクトチームとして検討会が立ち上げられ、そこで検討された案が協議会に諮られるかたちは良い。**

⇒　**分科会は協議会の委員で組織するものと考え、協議内容によってはバス分科会が考えられるが、今回はデマンド運行に関する協議の前段階の会として検討会を立ち上げた。検討会は関係する地域の代表者や利用者、公共交通事業者で組織し、それぞれから意見を聞きたいと考えている。検討会は実験を実施するための実務的な組織と考えている。**

▼デマンド運行実験の実施について

○　**前回の協議会ではデマンド運行を検討する方向だったが、今回はデマンド運行を行うこ**

とが前提になっている。デマンド運行を 2 か所で行う予定を 1 か所にしたこと、デマンド運行を行うのか行わないのかをこの場で決める必要がある。

○ 実験は 2 か所でも 1 か所でも良い。1 か所で行う実験を事務局案で進めるかどうか議論してもらいたい。

⇒ 8 月の協議会で実験の目的と対象地域を提案させていただき、了承をいただいたのでデマンド運行検討会を組織した。デマンド運行実験の内容は現時点では決定していない。デマンド運行実験の内容は検討会で検討中であり、次回の協議会で案の決定をいただきたい。

▼大森桜ケ丘線でのデマンド運行実験の実施について

○ 大森桜ケ丘線では実験によって路線バスに影響が出ると思われているが、前橋市の PC システムを使った方式で行えば路線バスに影響しない。路線バスを補完するかたちでデマンド運行ができる。前橋市の PC システムを使った実験を試すべきである。

○ 大森・桜ケ丘地区でデマンド運行を行うと、運行頻度や運賃などによって影響が大きく、3 か月路線バスをやめてその後に元に戻しても、路線バスもさつきバスも利用者が減る。事務局はさつきバスの利用の少ないところ、他の公共交通機関に影響を及ぼさない範囲でデマンド運行を行うとしている。

○ 最初に手がけるのは、できるところ、やさしいところから順番に行えばよい。やりやすいところから始めて、次に進めばよい。

○ 事務局の説明や東鉄の説明もあったが、今回は実験であって決定ではない。まずやりやすいところから実験を行い、検証してから次の場所で実験をやって、地域にあったやり方を考えるべきである。

⇒ デマンド運行の実験については検討会の設置を認めていただいたので、その中で案をまとめていく。

▼その他

○ さつきバスの全体像を決めた上で進める必要がある。

○ 可児市にあった公共交通サービスが必要であり、成功に導く戦略が必要である。
デマンドバスだけではうまくいかない。MM（モビリティマネジメント）により、マイカー利用を公共交通利用に転換させる観点が必要である。デマンド運行と MM の組み合わせにより、地域の公共交通の活性化の方向を考えることができる。

3 名鉄広見線（新可児～御嵩駅）対策について

資料 2 に基づき事務局から説明した。

（主な意見）

○ 車利用者の移動を把握し、車利用者の利益になる策を打って、車利用から鉄道利用に転換を図る必要がある。鉄道への自転車の持ち込みや商店の割引などがよい。

⇒ パーソントリップ調査では、可児市中心部と御嵩との間で 1 日に 7,500 人の移動があ

り、そのうち 6,600 人は車利用者である。車利用者が 10 日に 1 回広見線を利用した場合は広見線の利用は現在の 1.2 倍になるとの試算があるので、委員の話には可能性がある。

4 その他

- 事務局から、可児市役所で取り組んでいるエコ通勤について説明した。
- 委員から、さつきバスの停留所の看板が破損しているとの報告があった。

※ 本日の協議会では非公開部分はないことを確認した。デマンド運行については、検討会の中で議論を進め、検討会でまとめられた案を次回の協議会に諮ることを伝え、協議会を閉会した。